

# 取 扱 説 明 書

ガス校正キット(GOTシリーズ対応) CK-10

株式会社 ガステック

営業本部：〒252-1195 神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-6

TEL.0467-79-3911 FAX.0467-79-3979

西日本営業所：〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-14 新大阪グランドビル

TEL.06-6396-1041 FAX.06-6396-1043

九州営業所：〒812-0066 福岡県福岡市東区二又瀬 11-9 パークサイドスクエア

TEL. 092-292-1414 FAX. 092-292-1424

IM19CK10J3

## 目次

1. はじめに.....	2
1.1 取り扱いについて.....	2
1.2 保管について.....	3
1.3 保守・点検について.....	3
1.4 廃棄について.....	3
2. お確かめください.....	4
校正キット(CK-10)構成内容.....	4
3. 各部の名称と機能.....	5
3.1 吸引ポンプ(AP-10)各部の名称と機能.....	5
3.2 CK-10用ガスチャンバ各部の名称と機能.....	6
4. 準備をする.....	7
4.1 吸引ポンプ・CK-10用ガスチャンバの準備.....	7
5. スパン校正をする。.....	8
5.1 GOT-110A-2/GOT-110Aの校正を行う場合.....	8
5.2 GOT-110B-2/GOT-110Bの校正を行う場合.....	13
6. 故障かな?と思ったら.....	19
7. 仕    様.....	19
8. アフターサービスについて.....	20
8.1 保証期間.....	20
8.2 修理について.....	20

## 1. はじめに

---

この度は、お買い上げいただきましてありがとうございます。

本書は、GOTシリーズ検知警報器\*1に対応したガス校正キットの取扱説明書です。本器を正しく使用するために重要な注意事項を本書に記載しています。

誤った取り扱いや異常状態のまま使用すると、本器の目的を果たせず、重大な人身事故を招く恐れがありますので、本書の説明を必ずよく読み、内容を十分理解した上で正しくお使いください。

\*1：GOT シリーズ検知警報器は、酸素・毒性ガス検知警報器(酸素・一酸化炭素)GOT-110A、酸素・毒性ガス検知警報器(酸素・硫化水素)GOT-110B 及び前述器種の防爆対応品(GOT-110A-2, GOT-110B-2)です。

⚠警告	この表示を守らないと、使用者の身体又は物に重大な被害を及ぼすことを意味します。
⚠注意	この表示を守らないと、使用者の身体又は物に軽微な被害を及ぼすことを意味します。
△注記	本器の故障防止など、正しくお使いいただくためのアドバイスを意味します。

### 1.1 取り扱いについて

---

#### ⚠警告

本器を分解または改造しないでください。製品の安全と品質が保証できなくなります。

#### ⚠注意

1. 高温および極度の低温を避け、落下等の強い衝撃や振動を与えないでください。故障の原因になります。
2. 直射日光等により本器が高温になる場所での使用は避けてください。故障の原因となります。
3. 水や蒸気、砂や粉塵等が直接かかる場所での使用は避けてください。故障の原因となります。

## 1.2 保管について

---

### △注意

1. 長期間使用しない場合は電池を取り外して保管してください。電池をセットしたまま保管すると、電池の消耗や電池の液漏れによる故障を生じる可能性があります。
2. 直射日光の当たる場所に置かないでください。
3. 高温、多湿場所(90%以上)に置かないでください。
4. 水や蒸気、砂や粉塵等のかかる場所に置かないでください。

## 1.3 保守・点検について

---

### △警告

1. 本器は防爆機器ではありません。爆発事故防止のため、電池の交換は必ず可燃性ガスなどのない安全な場所で行ってください。本器が着火源になることがあります。
2. 始業前の点検、定期点検等の保守を行ってください。
3. 単2形アルカリ乾電池以外は使用しないでください。

### △注意

電池の交換は、必ず電源を切って行ってください。故障の原因になります。

## 1.4 廃棄について

---

C K-10には廃棄上注意が必要な材料は用いていません。不燃物として廃棄することをお奨めします。

### △注記

使用済電池等は、産業廃棄物として処理するか、地方自治体及び事業所の規定に従ってください。

## 2. お確かめください

---

お買い上げいただいた製品について、以下の構成内容がすべて揃っていることをお確かめください。

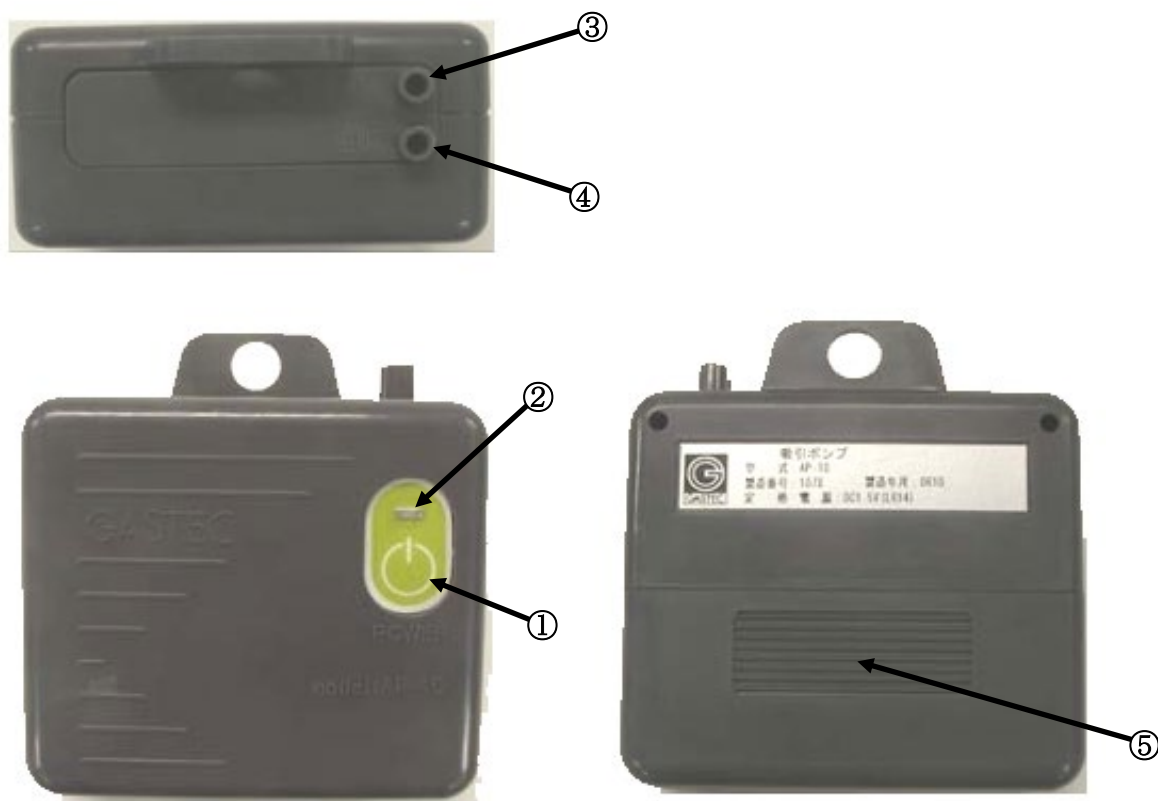
### 校正キット(CK-10)構成内容

	品 名	型 式	数 量
①	吸引ポンプ	AP-10	1
②	CK-10用ガスチャンバ	CK10-60	1
③	2L サンプリングバック	1356	1
④	単2形アルカリ乾電池		1
	保証書		1
	取扱説明書(本書)		1



### 3. 各部の名称と機能

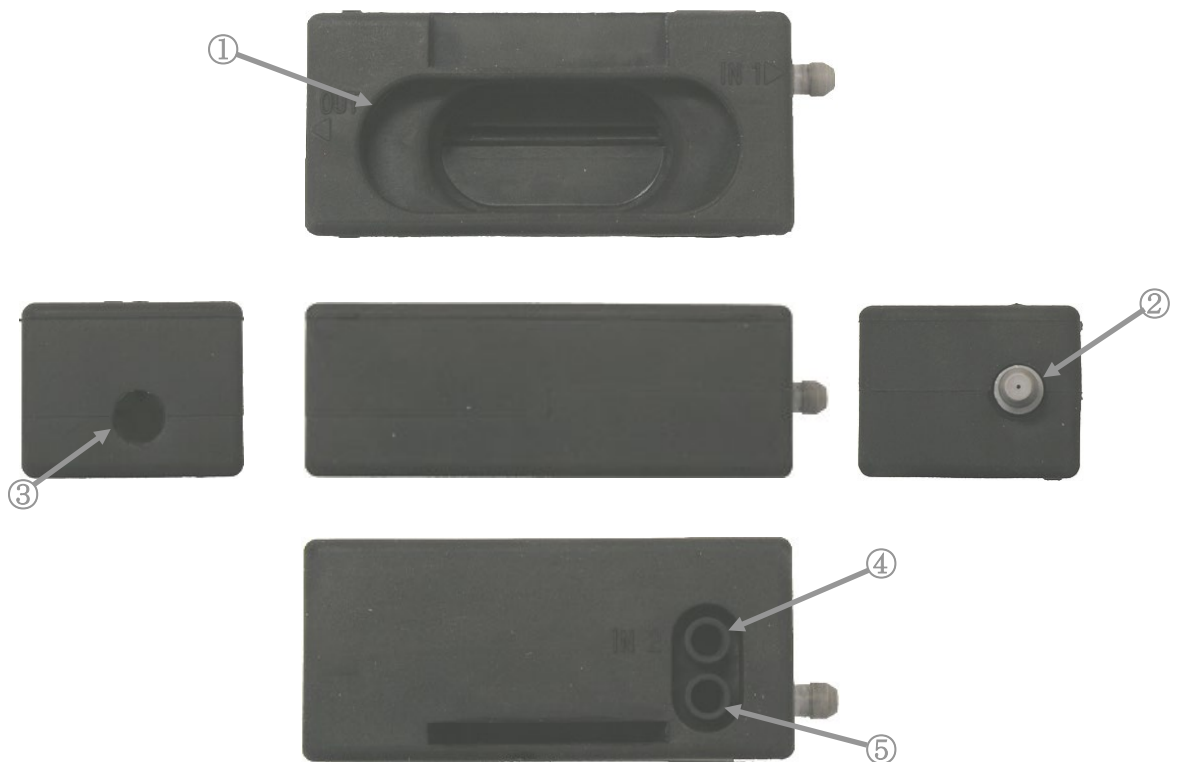
#### 3.1 吸引ポンプ(AP-10)各部の名称と機能



#### 各部の名称と機能

- ① 電源スイッチ  
電源の入切を行います。
- ② 表示ランプ  
正 常 時：緑ランプが点灯します。  
ポンプ故障：赤ランプが点灯します。  
電池交換予告：電源投入時に緑ランプが3秒間点滅し、その後点灯します。  
電池交換お知らせ：緑ランプが点滅します。
- ③ 吸引ニップル：IN  
外部からガスを吸引します。
- ④ 吐出ニップル：OUT  
ガスを吐出します。
- ⑤ 電池蓋  
電池交換をする際に電池蓋をスライドして開閉します。(電池室には単2形アルカリ乾電池1本をセットします。)

### 3.2 CK-10 用ガスチャンバ各部の名称と機能



#### 各部の名称と機能

- ① センサホルダ装着部  
GOT シリーズ検知警報器のセンサホルダ部を装着します。
- ② ガス吸引口(オリフィス付) : IN 1  
吸引ポンプ(A P-10)を使用した場合の、校正ガス又はサンプリングガスの吸引口です。⑤の“共通口”に通じています。
- ③ 吐出口 : OUT  
吸引ポンプ(A P-10)を使用した場合の、ガスの吐出口です。
- ④ 吸引口 : IN 2  
吸引ポンプ(A P-10)の吐出ニップル挿入口です。
- ⑤ 共通口  
吸引ポンプ(A P-10)の吸引ニップルの挿入口です。②の“ガス吸引口”に通じています。

## 4. 準備をする

### 4.1 吸引ポンプ・CK-10用ガスチャンバの準備

#### 4.1.1 乾電池をセットする

はじめて吸引キットをお使いになる場合は以下の手順で単2アルカリ乾電池をセットしてください。既に乾電池がセットされている場合は「4.1.2 吸引ポンプ(AP-10)の点検を行う」に進んでください。

- (1) 電池蓋をスライドさせて電池ケースを開けます。(右図 1. 参照)

スライドさせる



図 1.

- (2) 電池室内のプラスマイナスの表示に従って単2アルカリ乾電池を装着します。(右図 2. 参照)

- (3) 電池蓋をスライドさせて電池ケースを閉じます。



図 2.

#### △注記

電池のプラスマイナスの方向に注意して装着してください。

#### 4.1.2 吸引ポンプ(AP-10)の点検を行う

吸引ニップル・吐出ニップル部等の破損がないことを目視で確認する。

#### 4.1.3 CK-10用ガスチャンバの点検を行う

割れ・亀裂等の破損が無いことを目視で確認する。

#### △注意

1. 部品その他の目視点検の結果、亀裂・割れ等の破損を確認した場合は、新しい部品に交換した後、再度点検を実施してください。そのままの状態でご使用になりますと、測定精度の低下の原因となります。
2. 吸引ポンプが破損している場合は、お近くの弊社営業所にご連絡ください。

## 5. スパン校正をする。

### 5.1 GOT-110A-2/GOT-110A の校正を行う場合

センサは時間の経過とともに、また環境により感度が変化します。センサに既知の濃度の校正用ガスをあて、濃度表示が校正用ガス濃度を正しく示すように調整することをスパン校正といいます。既知の濃度の校正用ガスをセンサにあて、自動スパン校正を行います。スパン校正の際は GOT-110A-2/GOT-110A の取扱説明書も併せてご覧ください。

GOT-110A-2/GOT-110A 本体の校正用ガス濃度設定値は、出荷時に指定のない場合は 80ppm に設定されています。お客様では校正用 CO ガス濃度設定値は変更できません。変更をご希望の場合は、お近くの弊社営業所までご相談ください。

#### △注記

1. 日常的な始業点検と定期点検は、事業所で定められた有資格者が行ってください。
2. 日常的には必ず始業前点検を行い、さらに定期点検を行ってください。また少なくとも 1 年に 1 回は弊社に定期点検を依頼されることをお勧めします。(費用は有料です。)
3. 精度維持のため 1 ヶ月に 1 度、スパン校正を行ってください。

「スパン校正に必要な機器」

校正用 CO プッシュ缶 (特別付属品)

GOT-110A-2/GOT-110A 本体に設定されている校正用 CO ガス濃度を用意します。プッシュ缶入りの校正用 CO ガスは約 80ppm と約 250ppm の 2 種類を用意しています。



### 手順 1 : GOT-110A-2/GOT-110A 本体を点検する

GOT-110A-2/GOT-110A 本体を点検し、正常な状態であることを確かめる

操作 1 : 電源を入れます。

操作 2 : 電池残量を確かめる。

表示部の電池残量が 2 つ以上あることを確かめます。

電池残量表示が 1 以下のときは、電池交換をしてください。

操作 3 : 一酸化炭素の指示値が -5 ~ 5ppm の範囲内であることを確かめます。

範囲内に入っていないときはゼロ調整をします。

GOT-110A-2/GOT-110A 本体に設定されている校正ガス濃度を確認する

操作 1: 校正スイッチを押します。  
操作 2: 表示された校正用一酸化炭素濃度を確認する。(校正ガス濃度設定値は出荷時 80ppm に設定されています)

「80」と表示したときは 80ppm に設定されています。

「100」、「120」、「250」と表示される場合はそれぞれの濃度で校正用ガス濃度が設定されています。

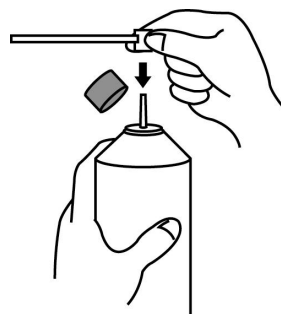
本書では GOT-110A-2/GOT-110A 本体の校正用 CO ガス濃度設定値は 80ppm オプションの校正用 CO ガス濃度 80ppm と CK-10 を使用する方法について説明します。



## 手順 2 : 校正用ガスを準備する

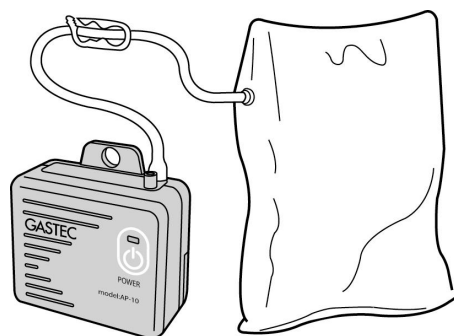
操作 1: 校正用 CO ガス入りプッシュ缶のフタを開けて口金にノズルを取り付けます。

(校正用ガス濃度設定値の校正用ガスを使用してください)

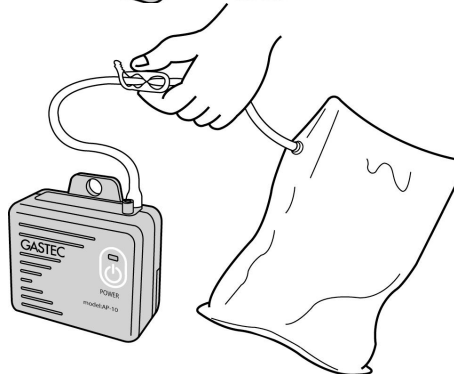


操作 2: 校正用ガス調整バッグのチューブは CK-10 付属吸引ポンプ(AP-10)の IN 側接続口に差し込みます。

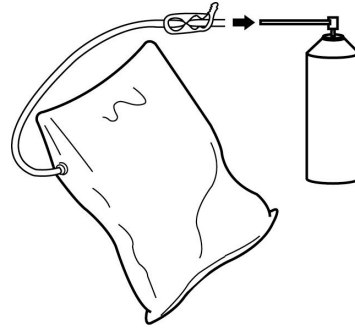
次にピンチコックを開きポンプの電源スイッチを押して調整バッグ内の空気を吸い出します。



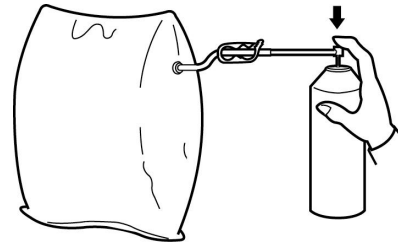
操作 3: ピンチコックを閉め、ポンプの電源スイッチを押してポンプを止めます。調整バッグのチューブをポンプから外します。



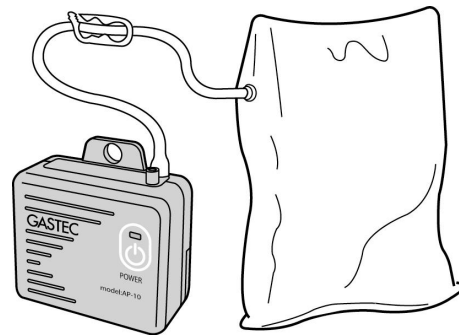
操作 4：空気を抜いた調整バッグのチューブをプッシュ缶のノズルの先に差し込みます。



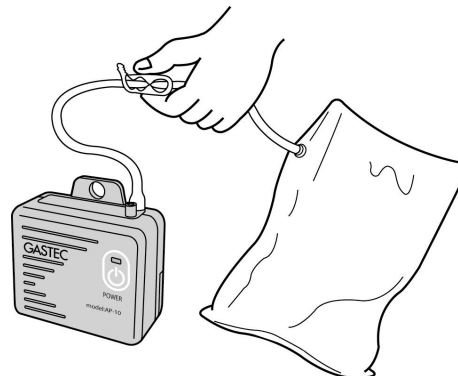
操作 5：ピンチコックを開き、ノズルの頭を押して調整バッグが少し膨らむまで (50~100mL) ガスを入れます。これはバッグ内の空気を CO ガスと入れ換えるためです。



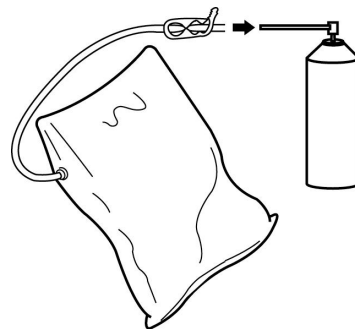
操作 6：再度校正用ガス調整バッグのチューブを CK-10 付属のポンプ(AP-10)のIN側接続口に差し込み、ピンチコックを開きポンプの電源スイッチを押して調整バッグ内のガスを一度全部外へ吸い出します。



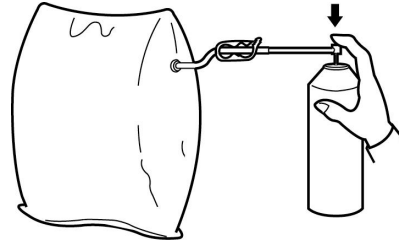
操作 7：ピンチコックを閉め、ポンプの電源スイッチを押してポンプを止めます。調整バッグのチューブをポンプから外します。



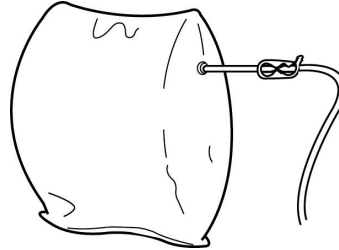
操作 8：もう一度調整バッグのチューブをプッシュ缶のノズルの先に差し込みます。



操作 9：ピンチコックを開き、ノズルの頭を押して調整バッグを1/3（約 700mL）膨らませます。



操作 10：ピンチコックを閉め、チューブをノズルから引き抜き、ノズルをプッシュ缶から外して缶にフタをします。



これで校正用 CO ガスの準備ができました。

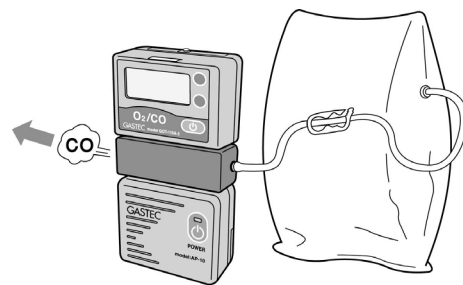
### 手順 3：校正用ガスをセンサにあて自動スパン校正を行う

操作 1：GOT-110A-2/GOT-110A の「校正」スイッチを押し続けます。

最初に「ピッ」と音がします。さらにスイッチを押し続けると表示部に[CAL]が表示され、設定された校正ガス濃度が 3 秒間表示されます。その後、表示が一 10~10ppm に変わり、自動スパン校正の待機状態になります。



操作 2：上から順番に GOT-110A-2/GOT-110A 本体、校正用ガスチャンバ、ポンプ (AP-10) とセットし(右図参照)、校正用ガスチャンバの IN1 に装着されている接続口に調整バッグのチューブを差し込みます。次にチューブのピンチコックを開いてポンプの電源スイッチを押します。



「ピッ」と音がして自動スパン校正を開始します。濃度表示が変化し、安定したところで最大値を表示します。

#### △注記

1. 調整バッグ内の校正ガスは、ポンプによりチューブを通してチャンバに送られセンサにあたります。
2. 出荷時に設定されている校正ガス濃度と異なる濃度の校正用ガスで自動校正を行わないでください。
3. お買い上げ後は校正用ガス濃度の設定値を変更することは出来ません。

操作 3: 最大値が「校正用ガス濃度×1.2」以上であることを確かめます。( センサ寿命チェック)  
最大値の表示は 1000ppm 以上になると[HI]表示になります。  
最大値の表示後しばらくすると通常の濃度測定状態に戻り、自動ガス校正が終了します。



操作 4: ガス濃度表示が「校正用ガス濃度の±5ppm 以内であることを確かめます。



操作 5: ポンプを止め、ピンチロックを閉めてチャンバをセンサから外します。

### △注記

1. 自動スパン校正で、校正用ガスをセンサにあて、最大値が「校正用ガス濃度×1.2」以上にならないときはセンサの寿命が近づいています。「電源」スイッチを押し続け電源を切ってから新しいセンサと交換してください
2. 自動スパン校正中「C.Er」表示になったときは、センサの取り付けなどを確認し、再度自動スパン校正を行ってください。それでも「C.Er」表示になるときは「電源」スイッチを押し続け電源を切ってからセンサを交換してください。
3. 自動スパン校正終了直後、ガス濃度表示が「校正ガス濃度±5ppm」の範囲に入らないときは、再度自動スパン校正をしてください。それでも範囲内に入らないときは「電源」スイッチを押し続け電源を切ってから新しいセンサに交換してください。
4. 自動スパン校正直後の酸素濃度指示値が 21.0%を指示しない場合があります。これは校正に使用したプッシュ缶の酸素濃度が 21.0%ではない場合に起こりますが、校正用チャンバをセンサから外せば酸素濃度は 21%に戻ります。

## 5.2 GOT-110B-2/GOT-110B の校正を行う場合

センサは時間の経過とともに、また環境により感度に変化します。  
センサに既知の濃度の校正用ガスをあて、濃度表示が校正用ガス濃度を正しく示すように調整することをスパン校正といいます。既知の濃度の校正用ガスをセンサにあて、自動スパン校正を行います。  
スパン校正の際は GOT-110B-2/GOT-110B の取扱説明書も併せてご覧ください。

### △注記

1. 日常的な始業点検と定期点検は、事業所で定められた有資格者が行ってください。
2. 日常的には必ず始業前点検を行い、さらに定期点検を行ってください。また少なくとも 1 年に 1 回は弊社に定期点検を依頼されることをお勧めします。(費用は有料です。)
3. 精度維持のため 1 ヶ月に 1 度、スパン校正を行ってください。必ず安全で換気の良い新鮮な空気中で行い、校正用 H<sub>2</sub>S ガスを吸い込まないでください。校正中に排出される H<sub>2</sub>S ガスも排気ダクト等に導き、作業者が吸い込まないようにしてください。

「スパン校正に必要な機器」  
校正用 H<sub>2</sub>S ガス発生キット  
(HSC-10) (特別付属品)



### 手順 1 : GOT-110B-2/GOT-110B 本体を点検する

GOT-110B-2/GOT-110B 本体を点検し、正常な状態であることを確かめる

操作 1 : 電源を入れます。

操作 2 : 電池残量を確認する。

表示部の電池残量が 2 つ以上あることを確かめます。

電池残量表示が 1 以下のときは、電池交換をしてください。

操作 3 : 硫化水素の指示値 -0.5 ~ 0.5ppm の範囲内であることを確かめます。

範囲内に入っていないときはゼロ調整をします。

### 手順 2 : 校正用ガスを準備する

#### △警告

中毒事故防止のために  
校正用 H<sub>2</sub>S ガスは吸い込まないようにご注意ください。

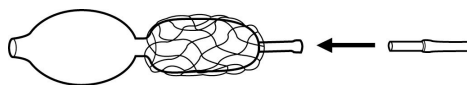
#### △注記

H<sub>2</sub>S ガス濃度は 10.0 ~ 30.0ppm の範囲にしてください。この範囲であれば、校正用ガス調整バッグ内で約 30 分間は、濃度が安定していると考えられます。

操作 1 :

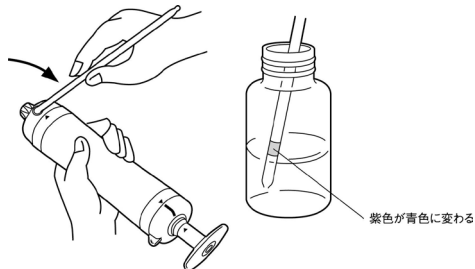
H<sub>2</sub>S ガス発生方法詳細は、校正用 H<sub>2</sub>S ガス発生キット(HSC-10)の取扱説明書をご覧ください。

校正用 H<sub>2</sub>S ガス発生キット(HSC-10)の二連球のゴム管の先に接続管のプラスチック管側を接続します。



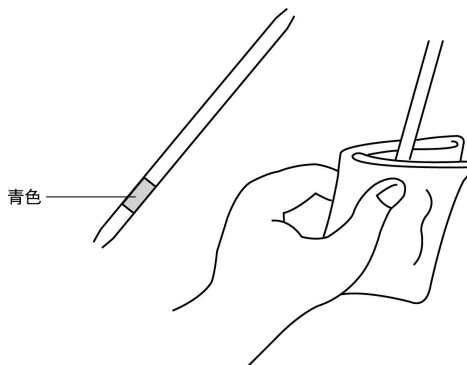
操作 2 :

① 校正用 H<sub>2</sub>S ガス発生キット(HSC-10)の H<sub>2</sub>S 発生管の両端を気体採取器のチップブレーカでカットし、  
② 試薬層(紫色)側を発生液に浸します。

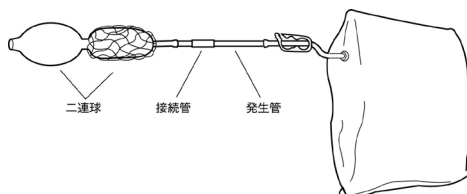


操作 3 :

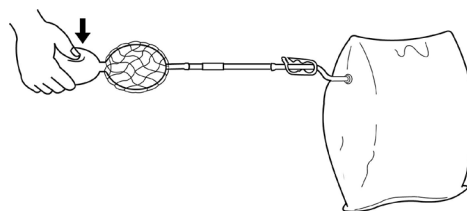
H<sub>2</sub>S 発生管の紫色が青色に変わったら取り出し、外側についた発生液をペーパータオルで拭き取ります。



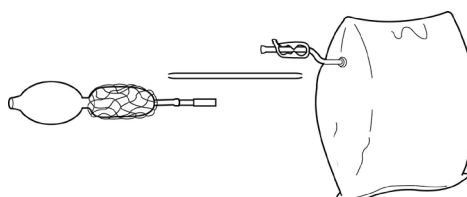
操作 4 : ①H<sub>2</sub>S 発生管の青色側を二連球の接続管に、他方を校正用ガス調整バッグのチューブに接続し、②チューブについているピンチコックを開きます。



操作 5 : 二連球を何度か押して調整バッグを完全に膨らませます。

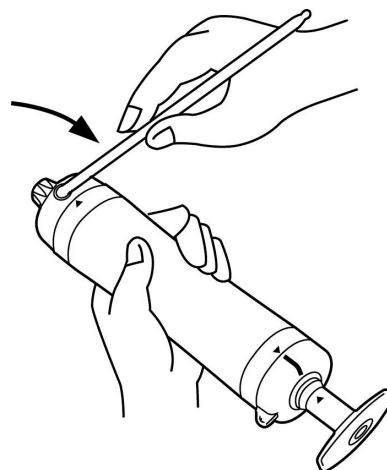


操作 6 : ピンチコックを閉じ、H<sub>2</sub>S 発生管と二連球(接続管をつけたまま)を外します。これで H<sub>2</sub>S ガスが採取できました。

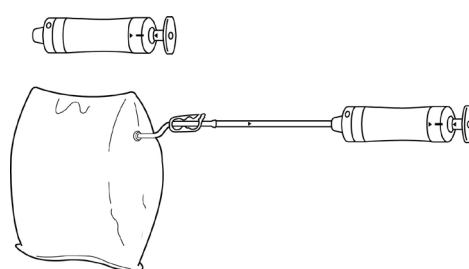


操作 7：採取した H<sub>2</sub>S ガスの濃度を調べます。

H<sub>2</sub>S 検知管 No.4LL の両端を気体採取器のチップブレーカでカットします。



操作 8：①気体採取器のハンドルが完全に押し込まれていることを確かめ、②検知管 (▶マークを気体採取器に向ける) を気体採取器のインレットゴムに差し込み、③他方を操作 1～6 で準備した調整バッグのチューブに差し込み、④ピンチコックを開きます。



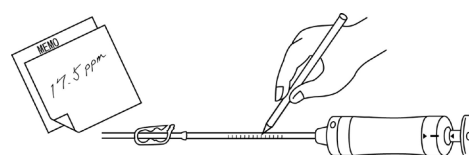
操作 9：気体採取器のシリンダのガイドマークとシャフトのガイドマークを合わせます。



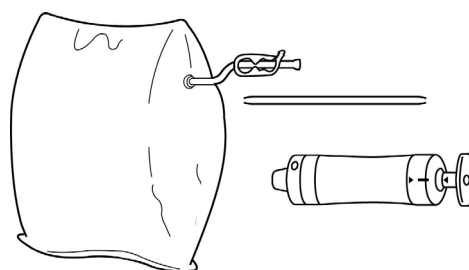
操作 10：ハンドルを一気に引いて固定し、1 分待ちます。(ハンドル部のフィニッシュインジケータで測定終了が確認できます。)



操作 11：検知管の変色(茶色)層の先端にペンで印をつけ、目盛りを読みとり、メモします。この値が校正用 H<sub>2</sub>S ガスの濃度です。



操作 12：①ピンチコックを閉じ②調整バッグのチューブと気体採取器から検知管を外し、③気体採取器のハンドルを元どおり押し込みます。



### △注記

\*校正用 H<sub>2</sub>S ガス濃度が 30ppm を超える場合は、調整バッグに空気を入れて希釈してください。

①調整バッグ内のガスをピンチコックを開け半分程度吸い込まないように注意しながらバッグを押し込み大気へ放出します。



②調整バッグのチューブをポンプ (AP-10) の OUT 側接続口に差し込み、ポンプで空気を入れて希釈します。

③再度バッグ内の H<sub>2</sub>S ガス濃度を検知管で測定します。



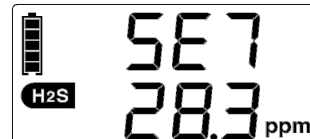
### 手順 3 : 校正ガス濃度を設定する

操作 1 : 「校正」スイッチを押し続けます。

最初「ピッ」と音がします。

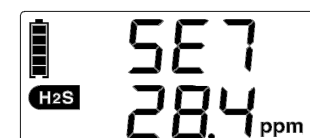
操作 2 : そのまま押し続けます。

3 秒後校正ガス濃度を設定する状態になります。表示部には上段には「SET」下段には設定ガス濃度が点滅します。



操作 3 : 準備した校正ガス濃度に設定ガス濃度をあわせませ

UP スイッチ (21%, 0 調整スイッチ兼用) を押し数値を上げてガス濃度をあわせませます。

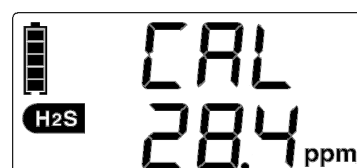


### △注記

1. UP スイッチを押し続けると数値の 2 桁目が増加していきます。
2. 設定値の範囲は 35.0 を上限として 35.0 を超えると 10.0 になります。
3. 操作と中止したいときは電源スイッチを押し続けて、電源を切ってください。

操作 4 : 「SET」スイッチ (校正スイッチ兼用) を押し続けて校正ガス濃度をセットします。

表示が「SET」から「CAL」になり校正ガス通気待ちの状態になります。



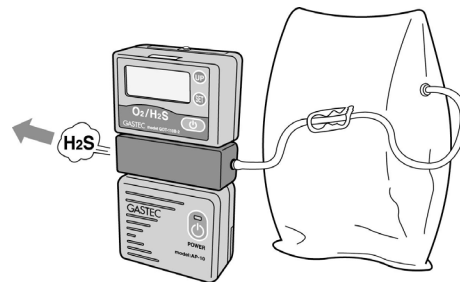
#### 手順 4 : 校正用ガスをセンサにあて自動スパン校正を行う

操作 1 : 「校正」スイッチを押し続けます。

最初に「ピッ」と音がします。さらにスイッチを押し続けると表示部に[**CAL**]が表示され、設定された校正ガス濃度が 3 秒間表示されます。その後、表示が 0 ~10ppm に変わり、自動スパン校正の待機状態になります。

操作 2 : 上から順番に GOT-110B-2/GOT-110B 本体、校正用ガスチャンバ、ポンプ (AP-10) とセットし(右図参照)、校正用ガスチャンバの IN1 に装着されている接続口に調整バッグのチューブを差し込みます。その後チューブのピンチコックを開いてポンプの電源スイッチを押します。

「ピッ」と音がして自動スパン校正を開始します。濃度表示が変化し、安定したところで最大値を表示します。



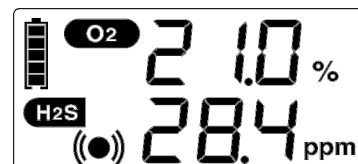
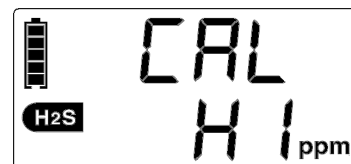
#### △注記

1. 調整バック内の校正ガスは、ポンプによりチューブを通してチャンバに送られセンサにあたります。

操作 3 : 最大値が「校正用ガス濃度×1.2」以上であることを確かめます。(センサ寿命チェック) 最大値の表示は 50.1ppm 以上になると[**HI**]表示になります。

最大値の表示後しばらくすると通常の濃度測定状態に戻り、自動ガス校正が終了します。

操作 4 : ガス濃度表示が「校正用ガス濃度の±1.5ppm 以内であることを確かめます。



操作 5 : ポンプを止め、ピンチコックを閉めてチャンバをセンサから外します。

#### △注記

1. 自動スパン校正で、校正用ガスをセンサにあて、最大値が「校正用ガス濃度×1.2」以上にならないときはセンサの寿命が近づいています。「電源」スイッチを押し続け電源を切ってから新しいセンサと交換してください

2. 自動スパン校正中「C.Er」表示になったときは、センサの取り付けなどを確認し、再度自動スパン校正を行ってください。それでも「C.Er」表示になるときは「電源」スイッチを押し続け電源を切ってからセンサを交換してください。
3. 自動スパン校正終了直後、ガス濃度表示が「校正ガス濃度±1.5ppm」の範囲に入らないときは、再度自動スパン校正をしてください。それでも範囲内に入らないときは「電源」スイッチを押し続け電源を切ってから新しいセンサに交換してください。
4. 自動スパン校正直後の酸素濃度指示値が 21.0%を指示しない場合があります。これは校正に使用したプッシュ缶の酸素濃度が 21.0%ではない場合に起こりますが、校正用チャンバをセンサから外せば酸素濃度は 21%に戻ります。

## 6. 故障かな？と思ったら

吸引ポンプ(AP-10)にはシートスイッチ部LEDによるお知らせ機能があります。LEDの色、点灯方法によって内容が異なりますので修理に出される前に、下表を参照して再度ご確認ください。

症 状		原因・意味	処 置	
1.	正常に作動するが、LED ランプが緑色3秒点滅後に点灯	電池交換警報です。しばらくすると吸引ポンプが停止します	1.	電池交換を行ってください
2.	スイッチを押しても正常の動作をせず、LED ランプが緑色の点滅	電池残量不足による起動不良です。		
3.	スイッチを押しても正常の動作をせず、LED ランプが赤色の点灯	内部の吸引ポンプが故障しています。	2.	お近くの弊社営業所にご連絡ください。
4.	スイッチを押しても正常の動作をせず、LED ランプは点滅、点灯もしない	電池を装着していない場合	3.	電池を装着してから、スイッチを押してください。
		電池が装着されている場合	4.	お近くの弊社営業所にご連絡ください。
		ジョイントゴムに亀裂・割れ等の破損がある		
		CK-10 用ガスチャンバに亀裂・割れ等の破損がある		

## 7. 仕 様

校正キット(CK-10)の製品仕様

項 目	仕 様
品 名	校正キット
型 式	CK-10
吸引ポンプ	AP-10
流 量	400mL/min 以上(20℃)
吸引流量 (AP-10 単体)吐出流量	400mL/min 以上(20℃)
CK-10 用ガスチャンバ	GOT シリーズ共用
製品構成部品	吸引ポンプ(AP-10)1 台, CK-10 用ガスチャンバ 1 個, 2L サンプリングバック
標準付属品	単 2 形アルカリ乾電池 1 本, 取扱説明書, 保証書

## 8. アフターサービスについて

---

### 8.1 保証期間

保証書に記載されたお買い上げ日より1年間です。(吸引ポンプの場合1年もしくは使用環境温度20℃で100時間です。)

正常なご使用状態で、この期間中に万一故障を生じた場合には、無料修理いたします。

### 8.2 修理について

19ページの「6. 故障かな?と思ったら」の内容を確認後、修理が必要な場合はお買い求めになられた販売店に修理を依頼してください。

#### 修理の依頼方法

次の内容を明記された上、保証書と一緒に販売店にご依頼ください。

- ・住所、社名、事業所名、所属名、お名前、電話、購入年月日
- ・商品名、型式、製造番号
- ・故障状況

その他アフターサービスにつきましては下記にお問合せください。

株式会社 ジーサービス  
神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-6  
TEL 0467-79-3919  
FAX 0467-70-6609